ワークプレイス メイキングをめぐる旅

新しく始まったWEBコンテンツのご紹介です。近年、働き方の多様化に伴い、ワークプレイスのあり方が変化してきました。在宅勤務が普及したものの、集まり、コミュニケーションを深める重要性が見直され、オフィスも再評価されています。オフィスではABW※の考え方が広まり、働く場所を自分で決めるようになりました。これからの働く空間はどのようなものになるのかを考えました。この企画にあたって、タイトルに、「ワークプレイス」と、まちづくりで使われる「プレイスメイキング」を取り入れています。これは、「人」を中心に「まち」を考え、つくり続けることと通じるからです。そして、ワークプレイスを什器やデスクのレベルから、「ワーク」と「ライフ」を分けないライフスタイル、そしてまちづくりのレベルまで広げ、さまざまな場所を訪れる計画を立てました。訪れるのは、オフィス研究の第一人者である仲隆介先生と、住まいやモビリティなど新しい生活空間の創出を事業にされている余合繁一さん。ナビゲーターは京都と淡路島で宿泊施設を企画運営している西濱愛乃。Vol.1は、仲先生が琵琶湖畔で取り組まれている『生きる場プロジェクト』を訪れました。詳しくはWEBサイトをご覧ください。

※ABW（Activity-based working）：オフィスワーカー自身が、仕事の状況や健康状態などを判断して、働く場所を自由に選ぶ働き方

余合繁一
Yogo Shigekazu
［余合ホーム & モビリティ株式会社 代表取締役社長］

仲 隆介
Naka Ryusuke
［合同会社Naka Lab.代表／京都工芸繊維大学 名誉教授］

navigator
西濱愛乃
Nishihama Aino
［株式会社NINI 共同代表］

CONTENTS

特 集：ワークプレイス メイキングを考える

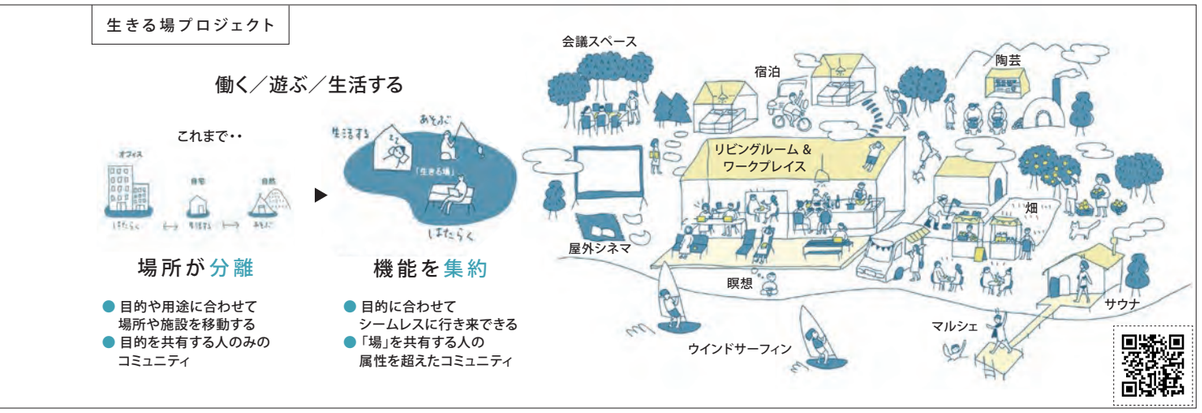
SPECIAL INTERVIEW
仲 隆介 氏／余合繁一 氏／西濱愛乃 氏 …… 1

SPECIAL EDITION
沖縄セルラー電話株式会社 本社ビル …… 5
戸田建設株式会社 筑波技術研究所 グリーンオフィス棟 …… 7
中電工業株式会社 …… 9
パナソニック エナジー株式会社 住之江 生産プロセス開発棟 …… 11
浜名湖パークビレッジ …… 13
スノーピーク都城キャンプフィールド …… 14

RECENT PROJECTS
サンクチュアリコート琵琶湖 ベネチアンモダンリゾート …… 15
三井ガーデンホテル京都三条プレミア …… 17
星のや竹富島 事務所棟・倉庫棟 …… 19

くらしは文化
中産連ビル本館 …… 21

＊本誌では略称を用いています。また、一部敬称は略させていただきます。
表紙写真：生きる場プロジェクト



働くことと遊ぶことを混ぜた「生きる場」

西濱　私は仲研究室の卒業生ですが今回は企画のナビゲーターとして、また関西で2拠点の宿泊施設を実際に運営する者として、いろんなワークプレイス メイキングを一緒に勉強していきたいと思っています。第1回目は仲先生の「生きる場」に来ました。仲先生が「生きる場」を構想され始めた頃、私たちも一緒に企画を考えさせていただきました。確か2020年頃のことですね。

仲先生　僕が大学で長くオフィスの研究をしている間に、オフィスの社会的価値がどんどん見直され、投資金額も大きくなりました。オフィスのクオリティーが企業に大きな影響を与えることに多くの経営者が気付いた時期です。その時代を僕は研究者として生き、後半の20年間は「場」づくりのお手伝いをしてきました。2023年3月に定年を迎える時、今度は自分が考える理想の「場」をつくりたいと思って始めたのがこのプロジェクトです。その時考えたのは、働くことと遊ぶことを分けず、むしろ混ぜたほうがいいんじゃないかということ。当時、ウインドサーフィンや陶芸を趣味としていて、その合間に気持ち良く仕事をしたいと思っていた。これまでは「仕事する場」と「遊ぶ場」と「生活する場」は全く異なり違う場所でした。それを全て同じ場所で、働いたりレジャーしたり生活したりすると、もっとクリエイティブなことが生まれるのではないか。そう思って、西濱さん姉妹と一緒に構想しました。彼女たちが多様な言葉やイメージを集めて描いてくれたスケッチには空間だけではなく、さまざまな行為が描かれていて、それを実現したいと思った。そういう意味では、空間というよりは「場」、エリアをつくっていきたいという思いでした。

いい人生を送る「場」をみんなでつくる

仲先生　琵琶湖湖畔に場所を決めてからは、仲間を集めるためにいろんな人にお声掛けをして、構想段階から手伝ってもらった。そういう人たちが今継続して「生きる場」を使ってくれています。「場」はみんなでつくったほうが有効利用できるという、僕の経験値があるんです。だからプロの目で見ると、ディテールは今一つかもしれません。でもそれでよくて、ここは空間のクオリティーよりも、「場」のクオリティーとして、本質的なところを抑えていると思います。

余合さん　凄く魅力的ですよね。いい仕事をする先にある「いい人生を送るための場」が「生きる場」なんだと思いました。都市部に集中するのではなく、こういう場所に来ると仕事のパフォーマンスが上がると気付く人たちが増え、社会も変わっていくのでしょうね。

余合繁一 氏
1992年トヨタ自動車株式会社入社。2001年東富士研究所研究員として次世代ハイブリッドや、モーター制御による車両運動コントロールを研究。2004年製品企画リーダーとしてレクサスLS600hプロジェクトを牽引。2008年トヨタ自動車を退社。2009年余合ホーム＆モビリティ代表取締役社長に就任。

仲 隆介 氏
1983年東京理科大学大学院修士課程修了。PALインターナショナル一級建築士事務所。1984年東京理科大学工学部助手。1994年マサチューセッツ工科大学建築学部客員研究員。1997年宮城大学事業構想学部デザイン情報学科専任講師。1998年同大学助教授。2002年京都工芸繊維大学デザイン経営工学科助教授。2007年同大学教授。2023年同大学名誉教授

西濱愛乃 氏
京都工芸繊維大学デザイン経営工学科修了後、設計事務所でワークプレイスデザインに携わる。2017年に起業し、京都と淡路島の2拠点で宿泊施設を企画運営。

自然の力と人間の力の融合

仲先生　「生きる場」には快適な室内空間もあるけれど、僕はこのテラスや湖畔で仕事をするほうが、室内で働くよりも絶対に生産性が上がると思う。夏は汗ばんでも、次の瞬間に風が吹くと最高に気持ちがいい。自然の中で働くというのはリテラシーが必要で、環境に合わせて、服装や時間をセルフマネジメントせざるを得ない。これを一度経験すれば、もともと自分は人間という動物で、脳も疲れるものだと理解でき、もっと有効に使えるようになると思います。

余合さん　自然の不便さの中で人間本来のポテンシャルが湧き出てくる話には強く共感します。例えばあるモーターショーのステージでは、錆びた真鍮のめちゃくちゃいい音がする古いサックスを吹いている隣で、木製ウォールナットのシンセサイザーが演奏されたりしていました。その時に感じたのは、全てオーガニックなものだけだったり、逆に機能ばかりの世界ではなく、人間本来の感性を呼び

覚ますようなオーガニックな中に先進の技術が融合されていたり、そんな世界観が私のめざしたいところ。どちらかだけではなく、その二つが融合すれば、もっと凄いものができるのではと思っています。

働き方や生き方を自分で選択すること

西濱　東京で勤めていた時は、毎日オフィスに夜中までいるのが基本的な働き方でした。買い物も、通勤時に便利なスーパーやショッピングセンターという、与えられるものの中から選ぶという生活でした。それが独立を機に京都に来て、自分で選択する働き方になると、生活と仕事、仕事と趣味が急に密接になったなと感じます。日々の買い物も人の顔が分かる小さい商店をできるだけ使ったり、個人で活動されている方と楽しそうなプロジェクトをやってみたり、地に足が付いたことを自分で選びながら生きるのは、とても人間らしいなと実感しています。

余合さん　そこですよね。同じように仕事をしながらでも、家庭と仕事の両立だけではなく、生き生きと生活することで、自分の人間としてのパフォーマンスを上げていくような世界を実現していくのがこれからの時代なんでしょうね。
お二人はもう今実践されているわけだけど、僕としてはこういう働き方、生き方という世界に行き着くために足りないものは何なのかというのを見つけて、ソリューションをしていきたいですね。

ワークプレイス メイキングをめぐる旅
A journey through workplace making

ワークプレイスという空間を、生き方も含めた広い視点で、新しい価値観を探っていく企画です。「場」をつくるだけではなく、どうアップデートしていくのか。その中で人と人とがどうつながって触れ合っていくのか、旅をしながら探っていきます。
ご期待ください。